

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成 29、30、31 令和 2 年度	事業者名	株式会社 日吉
補助事業名	<p>平成 29 年度 短期間堆肥化法の開発および繁茂抑制に関する技術開発          平成 30 年度 短期間肥料化法の開発および繁茂抑制に関する技術開発          平成 31 年度 高肥効肥料の開発および繁茂抑制に関する技術開発          令和 2 年度 水草の繁茂抑制に関する技術開発</p>		
補助事業結果概要	<p>水草の内沈水植物については、従来の約 3 年堆肥化法を短縮すべく平成 29 年度は技術開発を行ったが、大園先生（京大）ら発酵させていない水草の肥効が良いという論文に気づき、平成 30 年度は乾燥させただけの水草を用いて、非常に肥効が良いという結果を確認した。また、高肥効化については、水草を亜臨界分解したものを用いて肥効が向上したことを確認した。</p> <p>また、侵略的外来水生植物については、オオバナミズキンバイのバスタ液剤による枯殺方法の開発を行った。バスタ液剤含侵の爪楊枝を使い、直下水域への農薬の流出を抑え、標的の水草を枯殺することが出来る系の開発を行った。</p>		
<p>本年度（令和 3 年度）の状況</p> <p>・技術開発等の状況を含む</p>	<p>特に注力したのは、侵略的外来水生植物であるオオバナミズキンバイの農薬を用いた枯殺についてである。用いた農薬は、グルホシネート 18.5% 含有の市販薬剤（バスタ液剤）である。</p> <p>我々は、農薬投与時に直下水系への流出を出来る限り抑制できる方法を考案した。それは、元来葉や茎に展着させて用いるバスタ液剤をオオバナミズキンバイの茎に注入することで流出量を軽減することができた。さらに研鑽を積み、バスタ液剤を含侵させた爪楊枝をオオバナミズキンバイ茎に差し込み枯殺する方法を考案した。この方法では、直下水系への流出を最小限にすることに成功した。</p> <p>この枯殺方法は、石組み護岸中に生育したオオバナミズキンバイや、葦の植栽エリアに入り込んだオオバナミズキンバイなど根こそぎ引き抜くことが困難な場合に非常に有用である。</p> <p>この系は、ビオトープで行った野外実験でも有用性が確認できた。</p>		
備考			